

あ と が き

毎年のようになってしまったが、本年も、編集作業の大幅な遅れを皆様にお詫びしなければならなくなってしまった。「理由は……」と言っても意味が無いことであるが、昨年と同じであり、これまた同じく私の責任で起こった。お許しいただきたい。

この紀要は、専門分野の異なる人々の論文で成り立っているが、その中で、可能な限り全体の統一を図りたい。また当然のことであるが、その分野にあまり明るくない人にも読みやすいこと、が求められる。そのための作業の中で、全原稿の取り扱いを公平にするために払う編集委員の努力は、非常に大きい。今号から、編集委員の増えた新編集委員会での作業となったが、編集委員の労力を少しでも減らし、できるだけ早く作業を終えられるよう、今後とも執筆にあたっての規定の順守をお願いしておきたい。

神山町は、県内市町村の中で特に難読地名が多いということではなからうが、地名の読みは外部の者には極めて難しい。そこで、難読地名表を巻頭にでも付けようか、という意見もあったが、別刷を読む場合も考え、例年よりも細かくルビを付けることとした。しかし十分な結果が得られたか、自信が無い。

常用漢字以外の漢字を使用する場合、常用漢字でも常用漢字音訓表以外の読み方をする場合には、ルビを付けることにしてあるが、常用漢字以外の漢字であっても「ルビは不要では」と思うような字もあり、個人的にはもっと弾力的にととも思うが、統一性を考えるとそうせざるを得ない。氏名、年号には現在のところルビを付けていないが、それには特段の理由があるわけではなく、ルビを付けるべきか否か、今後の課題かも知れない。

これまた毎年のように書いていることに、グラフの問題がある。近年コンピューターの使用により、様々なグラフが手軽に描けるようになった。そのためもあってか、グラフの意味を考えていないのでは、と思わせるようなグラフも多い。このグラフは何のために示すのか、このグラフで何を示したいのか、をよく考えて作成されるようお願いしておく。編集委員会としても、見やすく、理解しやすい内容を目指し、改善を図って行きたい。

図版等の印刷効果をより高くできるなどの印刷上の利点を考え、版型を大きくしてはどうか、という声も出ているが、次号以後の宿題としておきたい。

(石井愷義)

阿波学会編集委員会

委員長	石井 愷義	副委員長	平井 松午		
委員	石田 啓祐	大川 健次	小川 誠	田中 省造	
	田村 栄二	名倉 佳之	伴 恒信	山本 茂	